

2025 年度 学校関係者評価委員会 報告

1. 学校関係者評価の概要

1) 基本方針

実践的な職業教育の質を担保するため、自己点検・自己評価の結果について、客観性を高めるとともに、保護者、その他の関係者（教職員を除く）による評価を通して、継続的に教育活動及び学校運営の向上を図る。

2) 評価結果の活用方法

年1回開催される学校関係者評価委員会において、自己点検・自己評価の結果について説明を行い、委員からの評価、意見を求める。委員からの評価を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努める。改善点や課題について学校運営会議で報告する。改善を必要とする項目について8月以降、学校長が対応を検討し必要時、教務会議で決定し実施する。

2. 学校関係者評価委員

穴井 こずえ	製鉄記念八幡看護専門学校 同窓会 若竹会会長
山口 真弓	製鉄記念八幡看護専門学校 学校後援会会長
下釜 達朗	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 医師
杉本 美由紀	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 副看護部長(教育担当)

3. 学校関係者評価委員会開催報告

日時： 2026 年 4 月 3 日（金）15：30～16：30 （製鉄記念八幡看護専門学校 視聴覚室）

出席者：	穴井 こずえ	製鉄記念八幡看護専門学校 同窓会 若竹会会長
	山口 真弓	製鉄記念八幡看護専門学校 学校後援会会長
	下釜 達朗	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 医師
	杉本 美由紀	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 副看護部長(教育担当)
	芹野 恭子	学校長
	兼川 五月	教務課長
	藤田 直子	教務主任

1) 2025 年度自己点検・自己評価結果について説明 まとめ別紙

I 教育理念	2.7
II 教育目標	2.7
III 教育課程経営	2.5
IV 教授・評価過程	2.5
V 経営・管理過程	2.2
VI 入学	2.4
VII 卒業・就業・進学	2.0
VIII 地域社会・国際交流	2.1
IX 研究	1.3

2) 意見交換

意見：デジタル教科書に変更して、学力への変化はどうか気になる。

回答：学力の変化は、評価しなくてはならない。学生自身も書き込みがしにくく、使い勝手は良いとは言えないようである。ただ、テキスト忘れや重たい教科書を毎日持ち運びしなくて良い利点は大きい。実習場に iPad を持ち運べないため、各病棟へ技術本は置かせてもらうよう許可を得た。他の実習施設へは教員が必要なテキストをもっていくことで対応している。

意見：この結果は絶対評価か、相対評価か。

回答：昨年度だけでなく、年次推移も必要であり、今後年次推移を表した結果公表を行う。

意見：学校には3年間大変お世話になった。先生方には感謝している。入職した後のケアをしっかりして欲しい。

回答：現場の看護師には温かい指導をするよう病棟主任を中心に働きかけている。看護師確保のためにも定着率をあげないといけないと考えている。昨年度、看護部長、副部長3名で新人の面接を年2回行った。また、インターンシップ形式で昨年度は病院説明会を行った。2年生の評価は高かったので続けていきたい。1年生に対しても何かしらの交流会を検討している。

意見：「国際交流」とはどういったものか。評点が低い改善が可能か。法人では外国人への対応はどのようにしているのか。

回答：多文化を知り、視野を広げるとい主旨がある。外国語の長けているスタッフもいるが、現在はスマホの翻訳機能を活用している。

回答：2年に一回教育研修で JICA に行っているが、地域における国際交流も可能ではないか。

意見：診療報酬の改定等が予定されているが、教員の給与補償はどうなっているのか。

回答：病院看護師と同様の賃金アップはある。

教員の業務負担も大きく時間外勤務の削減、働き方改革を進めていかなければならない。

3) その他

- ・法人の第三者評価委員会で年一回、報告の機会を得ているが、2026年4月より学校教育法の一部改正により、外部組織による第三者評価を受けることが義務づけられた。5年以内に体制を整えていかなければならない。自己点検自己評価基準も大学と同様のものに変更していく予定である。

以上